

第 44 回

鳥取県西部歯科臨床懇談会

と き 令和 6 年 9 月 29 日 (日)
午前 9 時 30 分 ~ 午後 2 時 40 分

ところ 米子市両三柳 104-1
鳥取県西部歯科医師会館
☎ 33-3864

主催 鳥取県西部歯科医師会学術委員会

第44回 西部歯科臨床懇談会によせて

鳥取県西部歯科医師会

会 長 植 木 泰 久

コロナ禍も明け講演会も活発に開催される様になりました。しかしながらコロナも未だに存在しその他の感染症としてRSウイルス、溶連菌e t c. による感染症も広がりを見せております。我々はその感染症を予防しながら日々の診療を遂行しなければなりません。

鳥取県西部歯科医師会臨床懇談会も44回を迎えて開催する運びとなりました。

今年5月26日に大変お世話になった会員も多いと思われませんが、加藤武彦先生が天国に召され、その1番弟子とも言われております田中五郎先生をお招きして全身だけでなく口腔機能障がい回復する為のデンチャースペース義歯の役割をご講演頂きたいと思っております。

鳥取大学歯科口腔外科と田中先生と同門である足立融先生のデンチャースペースを活用した義歯が嚥下機能向上改善された症例を発表されます。

西部歯科医師会の会員の先生方の日常の診療に役立つ会になる事を願い挨拶とさせていただきます。

第44回 鳥取県西部歯科臨床懇談会日程

9:00～ 受付開始
9:30～ 会長挨拶
9:35～10:20 一般口演
座長 倉敷佑人

1) 歯ブラシによる口腔穿通性外傷の小児例

鳥取大学医学部感覚運動医学講座口腔顎顔面外科学分野
○天津康佑、原田勇聖、土井理恵子
小谷 勇

2) 私の総義歯治療

けやき歯科 白石康博

3) デンチャースペース義歯が嚥下に及ぼす影響 ～義歯改造前後における舌骨・喉頭の運動解析～

全国訪問歯科研究会 足立 融

10:30～12:00 特別講演
座長 野坂明寛

「デンチャースペース義歯」の役割

神奈川県 歯科医師 田中五郎

12:00 ~ 13:00 昼休憩・展示見学

(12:05 ~ 12:40) ランチョンセミナー

「超高齢社会における義歯安定剤の役割について」

HALEON

歯科衛生士 松本 唯

13:00 ~ 14:30 特別講演

座長 野坂明寛

「デンチャースペース義歯」の役割

神奈川県 歯科医師 田中五郎

14:30 ~

閉会の挨拶

1) 歯ブラシによる口腔穿通性外傷の小児例

鳥取大学医学部感覚運動医学講座口腔顎顔面外科学分野

○天津 康佑 原田 勇聖 土井 理恵子 小谷 勇

【緒言】 歯ブラシによる口腔穿通性外傷の好発年齢は就学前、特に1～3歳で、受傷転帰は転倒が最も多い。そのほとんどが軽症であるが、重篤な継発症のため手術や入院処置を要した報告も散見される。今回、われわれは当科を受診した歯ブラシによる口腔粘膜穿通性外傷の小児例を複数例経験したのでその概要を報告する。

【代表症例の概要】 1歳1か月の男児。夕に歯ブラシを咥えたまま転倒し、父が歯ブラシを引き抜いたが出血が続くため当科救急外来を受診した。意識は清明、SpO₂:99%で vital に異常はみられなかった。口腔内は啼泣のため、できる範囲の診察で裂傷や出血等は確認できなかった。同日は帰宅し翌日に再診となった。翌日より38.7℃の熱発があり活気はない状態であった。再度、口腔内を診察したところ右口蓋舌弓に10mm程度の擦過傷が確認できたが明らかな刺創は確認できなかった。血液検査では、CRP:6.01mg/dl、白血球:18000/ulで、当院小児科と共同診療とし入院下で補液と抗菌薬(CTX:1.5g/day)による消炎を開始した。

第2病日、右後頸部に内出血斑を伴う腫脹がみられ造影CTを撮影。咽頭間隙、右深頸部、頸動脈間隙に脂肪織混濁や縦郭上部まで少量の air がみられ、咽頭は左方に圧排されていた。以上から歯ブラシが咽頭後壁に刺入し感染を来したと診断した。第3病日、口腔嫌気性細菌による感染もぬぐえなかったため嫌気性菌もカバーできるMEPM(600mg/day)に抗菌薬を変更した。

第6病日の血液検査にてCRP:1.43mg/dl、白血球:9200/ulで消炎傾向を認め、後頸部の腫脹も軽減した。第14病日、CRP:0.02mg/dl、白血球:11400/dlで頸部の腫脹もほぼ消退したためMEPMの投与を終了とした。造影MRIを撮影し咽頭間隙の脂肪織混濁や air、咽頭の圧迫所見が消失していることを確認し第15病日退院となった。その後、再燃兆候はみられていない。

【結語】 受傷の原因となった歯ブラシの破損や状態、刺傷部位、損傷の程度により病態は多様である。また刺入部は小さくても深部で重大な損傷となっている可能性があり、その初期診断には慎重を要す。その後のリスクを予測した治療方針を検討する必要がある。

2) 私の総義歯治療

けやき歯科

白石 康博

総義歯治療を成功させるためには治療における十分な知識と技術が必要になる。そのためにはまず義歯の基本的な形態をイメージすることができるかが大事になる。義歯の外形、人工歯と義歯床の位置関係、研磨面の形態など頭に入れておく必要があるが、最終的な三次元的なイメージは患者自身の口腔内で十分機能した義歯形態にこそ答えがある（形態は機能に従う）。次に、形態以上に重要になるのが咬合である。顎堤条件により咬合様式を変える場合もあるだろうが、基本的には両側性平衡咬合を付与するのが望ましいと考える。床外形等多少不備があっても咬合が問題なければ機能する義歯となる。

また、初診時に何らかの機能障害を主訴に来院される場合、患者の口腔内に義歯を装着した時がゴールではなく治療のスタートであることを患者とともに十分理解する必要がある。その理解が得られないと患者との信頼関係を築くことができず来院が途絶えるケースも経験する。患者との信頼関係をどう構築するか、臨床経験の浅い歯科医師ほど悩むのではないだろうか。

今回私の若手時代（卒業5年目）に担当した症例で患者との信頼関係を築き現在まで良好な経過を辿っている症例を提示したい。

3) デンチャースペース義歯が嚥下に及ぼす影響 ～義歯改造前後における舌骨・喉頭の運動解析～

全国訪問歯科研究会

足立 融

要介護者の方の義歯の要 or 不要がしばしば議論される。意思疎通ができ咀嚼可能な方なら議論の対象とはなりにくいですが、要介護度が重度となったり、認知症、嚥下障害などの場合、義歯は不要と判断されやすい。しかしながらその判断の根拠は非常に乏しい。総義歯を装着した健常者での義歯の有無による嚥下動態の評価報告はわずかにあるが、その報告においても評価は異なる。それは使用されている義歯によって影響を受けるからである。

田中五郎先生の特別講演を拝聴すると理解できるが、デンチャースペース義歯は理論通りに作製されれば術者による差が少ない。

そこで、演者が嚥下障害患者の義歯をデンチャースペース義歯へ改造した症例の VF を草津総合病院頭頸部外科部長 河本勝之先生、新潟大学摂食嚥下リハビリテーション学分野非常勤研究員 鈴木拓先生、言語聴覚士 古志なおみ先生に DIPP-Motion を用いて舌骨・喉頭の運動動態を解析していただいた。その結果からデンチャースペース義歯の嚥下への影響を報告する。

特別講演

「デンチャースペース義歯」の役割

神奈川県 歯科医師

田 中 五 郎

高齢社会の現在、全身だけでなく口腔に特化した機能障害を持った患者さんが多くなりました。

その機能に合わせた義歯ではなく、もう一步進んで、機能を回復する為のデンチャースペース義歯の役割をご紹介します。

田中 五郎 (タナカ イツロウ)

略歴:

- 1963年 神奈川県生まれ
- 1988年 東京歯科大学卒業
加藤歯科医院(加藤武彦院長)勤務
横浜市立市民病院口腔外科(河内四郎部長)にて研修
- 1990年 田中歯科医院勤務
- 1992年 田中歯科医院院長
- 2023年末 田中歯科医院閉院 現在フリー

横浜市立石川小学校学校歯科医(2023年まで)

全国訪問歯科研究会(加藤塾)会員

義歯臨床研究会「車座」会員

DSM(デンタル・スタッフ・ミーティング)会員

日本顎咬合学会会員(2023年まで)

主な著作・執筆:

- ・田中五郎:在宅診療における義歯のメンテナンス,
デンタルダイヤモンド,Vol128 No12:40-45,デンタルダイヤモンド社、東京、2003.
- ・田中五郎:改造義歯を利用した咬合採得法,
デンタルダイヤモンド増刊号 補綴を健康にする80のいろいろ,
デンタルダイヤモンド,Vol128No10:100-101,デンタルダイヤモンド社,東京,2003.
- ・田中五郎:旧義歯改造法を用いた総義歯の製作,
歯科医療,Vol118 No2:37-46,第一歯科出版,東京,2004.
- ・田中五郎:治療用義歯改造のポイントは,
デンタルフロンティアQA,No31:53-54,デンタルダイヤモンド社,東京,2005.
- ・田中五郎:総義歯には機能にマッチした形がある,今求められている総義歯設計,
デンタルダイヤモンド,Vol31 No450:24-25,デンタルダイヤモンド社,東京2006.
- ・田中五郎:実践総義歯 合理的な総義歯調整法,
歯科学報,Vol107 No4:375-378,東京歯科大学,東京,2007.
- ・田中五郎:デンチャースペースにマッチした義歯床外形設定と人工歯配列の実践,
歯科技工,Vol35 No4:453-463,医歯薬出版,東京,2007.
- ・田中五郎:総義歯実習研修会での実習ポイント,
デンタルダイヤモンド,Vol32 No15:30-37,デンタルダイヤモンド社,東京,2007.
- ・田中五郎:義歯の疼痛と対応について教えてください,日常臨床のテクニックQ&A,
デンタルダイヤモンド増刊号,Vol32 No5:104-105,デンタルダイヤモンド社,東京,2007.
- ・田中五郎:上顎義歯の安定に苦労した症例,
デンタルダイヤモンド増刊号 私のPD臨床,Vol32 No10:74-81,デンタルダイヤモンド社,東京,2007.
- ・田中五郎:顎堤取の著しい総義歯にどう向き合うか-筋圧中立管理理論によるデンチャースペース義歯-,
デンタルダイヤモンド,Vol33 No476:22-31,デンタルダイヤモンド社,東京,2008.
- ・田中五郎:特集長寿社会における“義歯とインプラントの共存”を考える,
デンタルダイヤモンド,590;デンタルダイヤモンド社,東京,2015.
- ・田中五郎:デンチャースペース義歯:デンタルダイヤモンド社、東京、2016.
- ・田中五郎:デンチャースペース義歯の作り方,食べる喜びを支える歯科医療のためのデンチャースペース義歯
加藤武彦監修,90-111,デンタルダイヤモンド社、東京、2018.
- ・田中五郎:超高齢社会におけるオーラルフレイル予防に寄与する義歯治療:
デンタルエコー,Vol196:34-42,松風歯科クラブ,京都,2019.
- ・田中五郎:総義歯で「食べられるロづくり」-口腔機能に衰えがみられる高齢者の治療計画、
デンタルダイヤモンド,Vol44,No7:47-57,デンタルダイヤモンド社,東京,2019.
- ・田中五郎:唾液による健康づくり:下野正基,奥田克爾:ヒョーロン.
- ・田中五郎:食べられるロづくり口腔ケア&義歯:加藤武彦,黒岩恭子,田中五郎編集:医歯薬出版.
- ・田中五郎:介護の基本を押さえよう:田中歯科医院:歯科衛生士,Vol38March:クインテッセンス出版,東京,2014.

協 賛

(株) 玉井 齒科 商會

(有) 桜井 齒科 商會

(有) 中尾 齒科 商會

(株) 毛り夕 岡山 營業所

H A L E O N